

# マネジメントコース研修生のつぶやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感等を述べたものです。

※ 自治大学校における一年間の研修であり、研修期間中の概ね半分は自治大学校における実務に参画し、もう半分は通常の研修(第1部課程等)を履修することにより、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

私が自治大学校に派遣されてから、早くも半年が過ぎました。

もうすっかり寄宿舎での生活にも慣れ、毎週末、バドミントンやテニスなどの運動をしたりして楽しく過ごしています。

派遣された4月からあえて振り返ると、新型コロナウイルスの感染拡大が一向に収まらず、政府から緊急事態宣言が発令され、私たちもテレワーク勤務や外出自粛を余儀なくされました。

そんな中でも、同じマネジメントコースの研修生や自治大学校職員の皆様と機会は制限されながらも交流することができ、また、グラウンドや体育館といった厚生施設を利用することで、自由に外出できないことの不便さをあまり感じることはありませんでした。

6月には緊急事態宣言が解除されて、勤務も通常どおりに戻り、近隣の商業施設も時短営業しつつも再開するなど、生活も徐々に元通りになっていきました。

そんな中、当初は6月から開始する予定だった第1部課程第134期が8月からの開始に計画が変更され、私はそれに向けた準備を行っていきました。

依然、東京都の新型コロナウイルスの感染者数は他の都道府県と比較して多かったこともあり、職員派遣を辞退する自治体もありながらも、8月から第1部課程がスタートし、私たちだけだった寄宿舎に研修生がやってきました。

私が担当していたのは、第1部課程のカリキュラムの中で中核を占め、グループで地方公共団体が直面する政策課題について解決策を検討する政策立案演習の運営でした。

従来だと、研修生がグループで先進事例等の視察に赴く実地調査が演習過程の中に組み込まれますが、今期は新型コロナウイルスの感染拡大状況を勘案して、オンラインによる調査をメインとしました。これにより、研修生には演習での活動においても制限を課すこととなりましたが、おかげさまで大きく体調を崩す研修生も出ずに済み、ご協力いただき大変感謝しています。

私がしたことは、研修生が作成した企画書や報告書をまとめて配布するといった事務的な作業で、研修生の皆さんには苦勞をかけることはあっても感謝されるようなことはしていませんが、皆さんが計画的かつ自主的に取り組み、スケジュールに沿って成果物を完成させてくれたのでスムーズに運営することができました。

一方で、運営面で上手くいかなかった部分、もう少し工夫できた部分もあるかと思しますので、新型コロナウイルス対策も含めた「新しい研修の姿」を模索しながら、次期以降の研修に生かしていければと考えています。(Y.F)



寄宿舎から見たテニスコート側



夜の中庭(池)